

2019.9.21

廃棄物資源循環学会 第30回年次大会

脱使い捨てプラの意識普及 に向けた事業成果報告

京都市ごみ減量推進会議職員

堀 孝弘

発表概要

1. はじめに

◇発表者の自己紹介

◇京都市ごみ減量推進会議は、「**リーフ茶の普及で、ペットボトルを減らそうキャンペーン**」に取り組んでいます。

2. 事業目的と報告の概要

3. 調査の対象と概要

4. アンケートの内容とねらい

5. アンケートの結果

6. 今後の課題

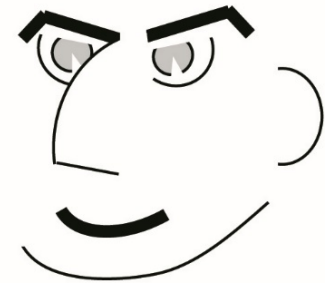
この2点に重点を置いて発表します。

発表者の自己紹介

堀 孝弘（ほり たかひろ） 1959年 京都市生まれ

現在 京都市ごみ減量推進会議 職員

過去 奈良県生駒市 環境経済部次長
NPO法人環境市民 事務局長
京都グリーン購入ネットワーク 事務局長
立命館大学、京都精華大学など5校の講師
京都大学(環境保全センター)職員などを歴任



経歴 ○A 機器販社、生協職員、京都大学職員などを経験

著書（共著を含む）

「日本のおもちゃ・アニメはこれでいいのか」 地歴社1994

「やってみようエコチェック」 講談社2002

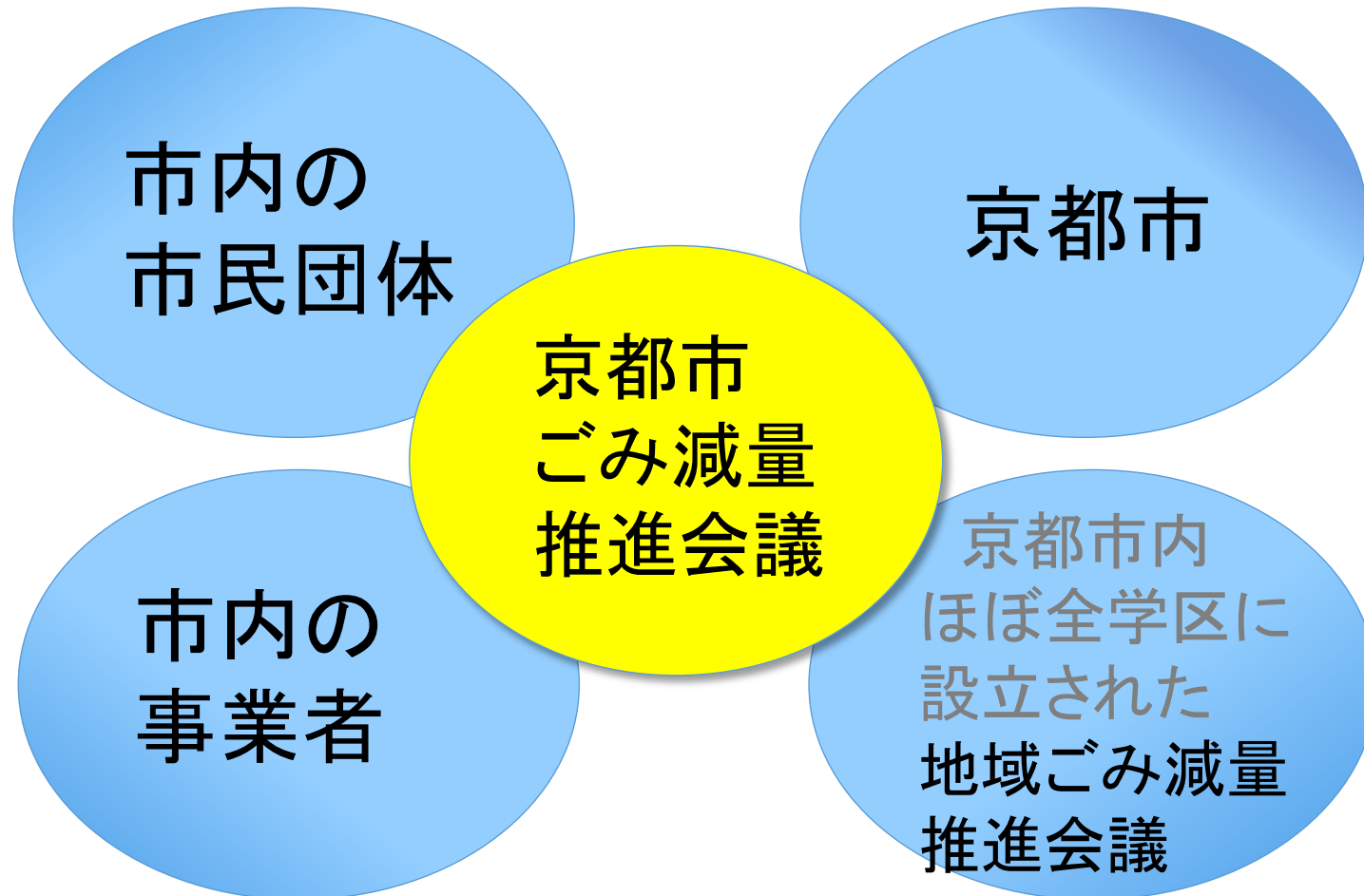
「だれでもわかるデポジット」 合同出版2003

「ごみ問題100の知識」 東京書籍2004

「グリーンコンシューマーガイド1999京都」 環境市民1999共著

京都市ごみ減量推進会議

1996年に設立 会員500団体超



名前に「京都市」を冠しているが、京都市直接の団体ではなく、財源の大部分は、京都市からの委託金。他に会員の会費、事業収入
京都市ごみ減量推進会議は、京都市ではできない、できにくい活動に取り組む。

1. はじめに

京都市ごみ減は、2016年秋から「**リーフ茶の普及で、ペットボトルを減らそうキャンペーン**」に取り組んでいる。
リーフ茶とは茶葉から淹れる茶のことで茶種は問わない。

背景 **ペットボトル飲料の増加**

相反して、**茶葉消費の減少、お茶を淹れることができない人の増加**
リサイクル費用負担

地場産業や文化の振興、豊かさの見直しなど様々な分野の情報と絡め、緑茶に限らずペットボトル飲料に頼った暮らしの見直しを提案している。

活動実践者など関心の高い層だけでなく、大学生や無関心層など、様々な階層に向け活動を展開している。

そのような中

- 海洋ごみ問題の深刻化
- 2017年以降の中国をはじめ東南アジア諸国の海外廃プラの禁輸
- 世界的な使い捨て(シングルユース)プラスチックの削減に向けた動き

3Rの中で最も優先順位が高いとされるリデュースの重要性が、今あらためて高まっている。合わせて、グローバルな環境問題の解決・軽減に向け、ローカルな活動の積み重ねもますます重要になっている。



2. 事業目的と報告の概要

「脱使い捨てプラスチック」の声をよく聞くようになった。

ペットボトルは、中身商品への配慮からか、行政の市民向け啓発でも「マイボトル持参」のように、婉曲的に取り上げられることが多かった。

しかし、各地の川ごみ調査でペットボトルは回収ごみの上位を占めることが多い。

右は東京・荒川での光景

京都府亀岡市保津川水系で回収された放置ごみ

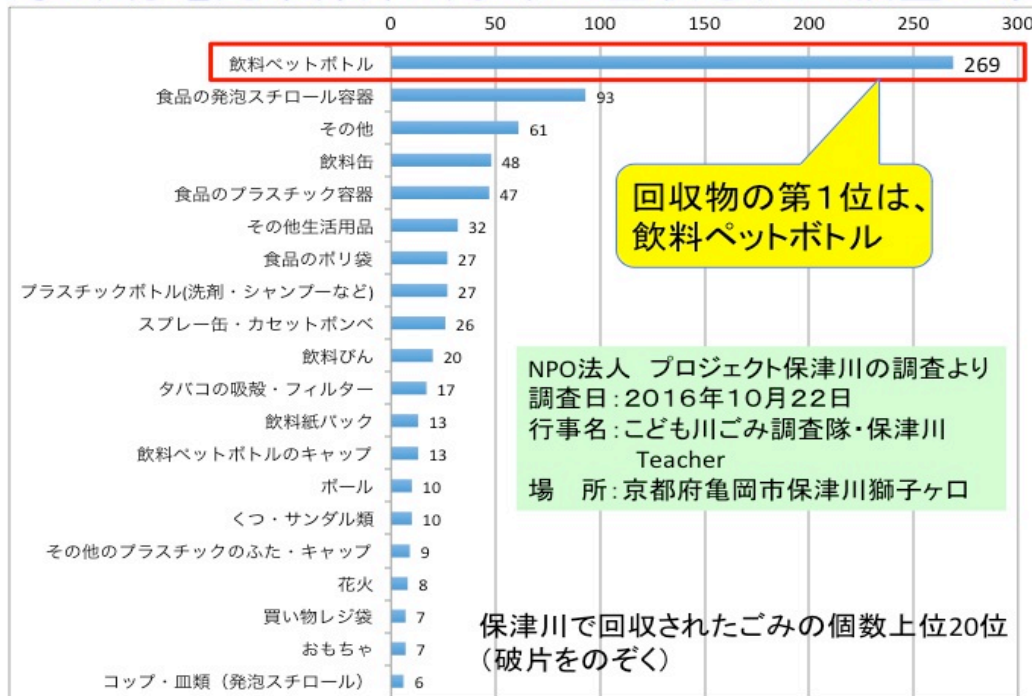


写真 NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム提供

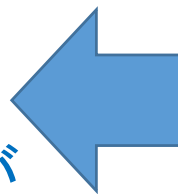
2. 事業目的と報告の概要

また2017年度まで、国内で回収された廃ペットボトルの4割以上、年間20万トン前後が海外に輸出される²⁾など、分別の徹底、リサイクルの推進だけでは解決できない問題も見えてきた。

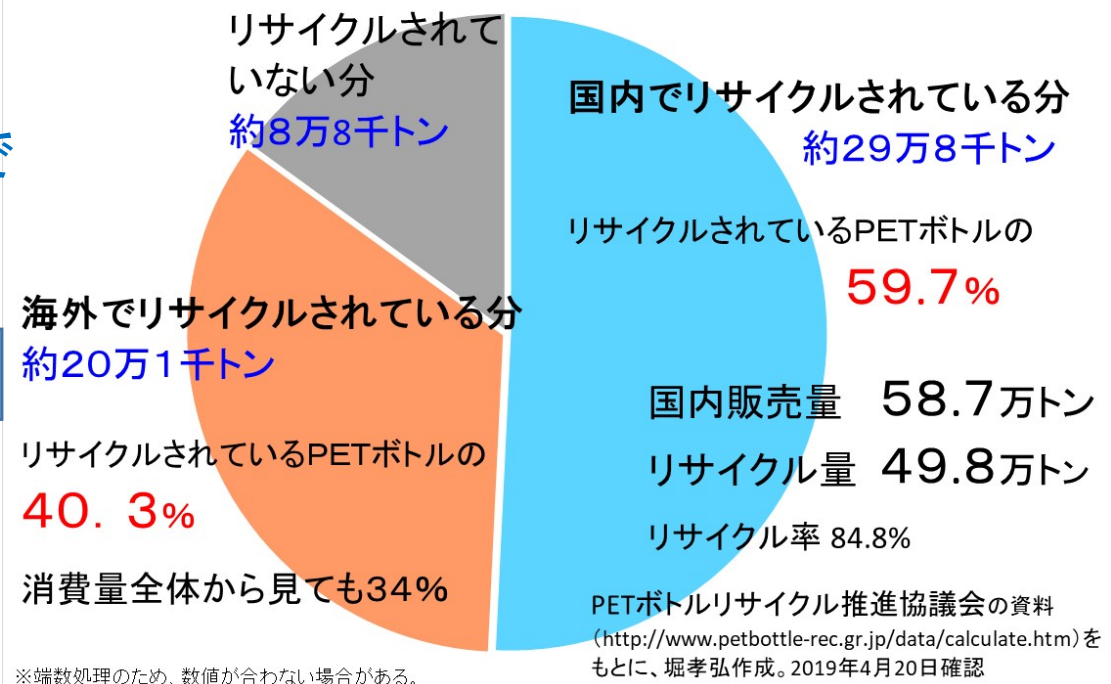
ペットボトルを削減対象とした活動を進めることで、他の様々な脱プラ活動の加速し、プラスチック多消費社会の見直しに寄与することを目的とする。

自販機横や駅、スーパーで回収されたPETボトルは、ほとんどが海外へ。

2017年まで大半が中国に「輸出」されていた。



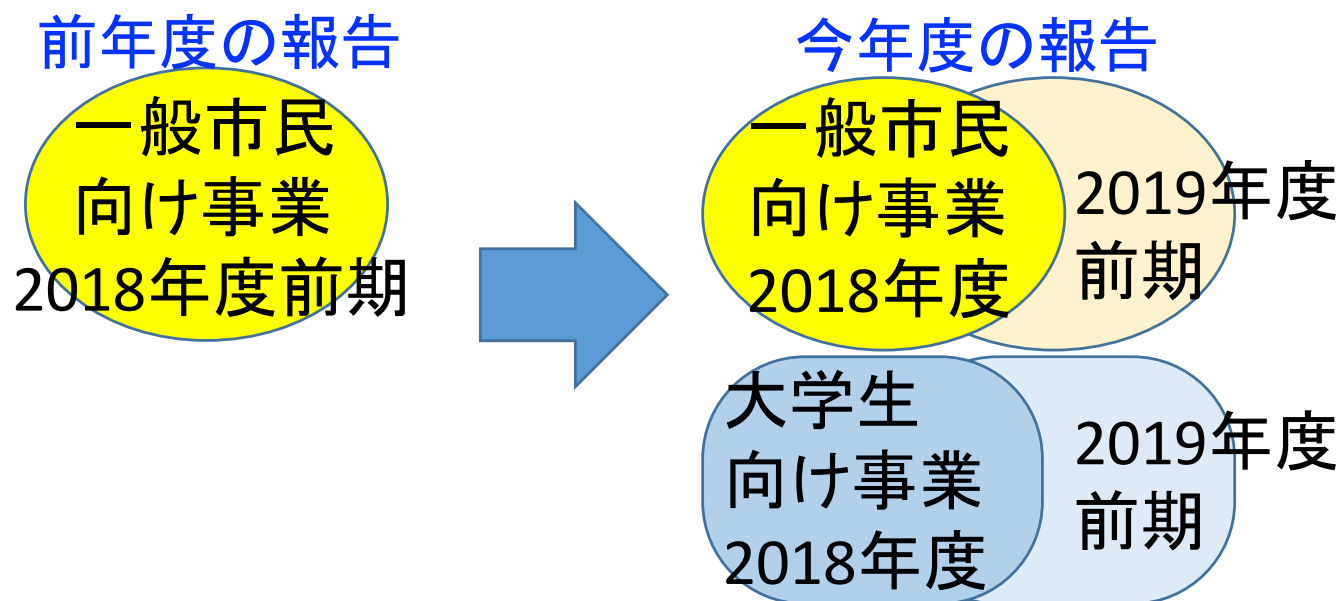
2017年のPETボトルリサイクルの内訳



2. 事業目的と報告の概要

昨年の第29回大会では、本事業のうち、無関心層を含む市民向け事業（事業名、2R茶会）」の成果報告をした。「おいしいお茶の淹れ方講習」と組み合わせることで、ペットボトル飲料に対するリデュース意識を高める効果があることを、アンケート結果をもとに報告した。

今回は、2018年度以降の市民向け及び大学生向け事業で得たアンケートを整理し、性別、年代別のペットボトル飲料の利用頻度と、リデュース意識の高揚効果について報告する。

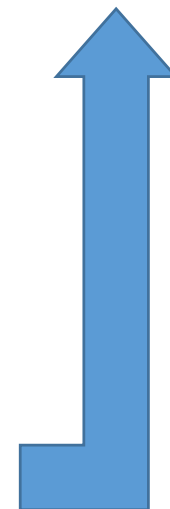


3. 調査の対象と規模

さまざまな階層・関心層に働きかけ

無関心層に向けて、
「人の集まるところ
に出向く」、

事業	対象	年度	内容	参加者
講座・ 学習会	市民 (関心層・活動実践者)	2018	連続講座 今こそ脱プラ 4回	151 人
		2019	映画「プラスチック・チャイナ」上映とミニ学習会 (予定)	110 人 予定
			海ごみ、脱プラ学習会 6回	150 人 予定
2R茶会	市民 (無関心層含む)	2018	おいしいお茶の淹れ方講習」と合わせた2R啓発 3回開催 鳥羽、蹴上、祇園祭エコ屋台村	324 人
		2019	おいしいお茶の淹れ方講習」と合わせた2R啓発 2回開催 鳥羽、蹴上	332 人
大学講義	大学生 (環境問題に関心があるとは限らない)	2018	おもに京都市内 6校 8クラス	651 人
		2019	おもに京都市内 4校 4クラス	442 人
他団体との 協働事業	市民・学生 (ある程度、関心を持っている人たち)	2018	宇治茶ムリエ講座」と合わせた2R啓発 5回	大学生に向けた出張講義 (環境問題に関心があるとは限らない)
			祇園祭ごみゼロ大作戦ボランティア説明会 7回	
		2019	宇治茶ムリエ講座」と合わせた2R啓発 5回	



市民向け「おいしいお茶の淹れ方講習」 「宇治茶ムリエ講座」と合わせた2R啓発事業

年度	開催日	会場	実施形態	所在地	参加者（人）
2018	4月30日	鳥羽水環境保全センター	A	京都市南区	132 人
	5月1日	蹴上浄水場	A	京都市東山区	140 人
	7月22日	祇園エコ屋台村	A	京都市中京区	52 人
	9月20日	岡崎学区内	B	京都市左京区	28 人
	10月23日	有隣小学校	B	京都市下京区	22 人
	12月13日	松陽学区内	B	京都市西京区	23 人
	1月24日	久我ノ社学区ない	B	京都市伏見区	20 人
	1月29日	朱八小学校	B	京都市中京区	34 人
2019	4月27日	鳥羽水環境保全センター	A	京都市南区	130 人
	5月3日	蹴上浄水場	A	京都市東山区	202 人
合計					783 人

- A 人が多く集まるイベント会場に、20人程度が入れるテントを出して実施。
予約はとらず、テント前を通る人に声をかけ、「おいしいお茶の淹れ方講習」に参加してもらい、20分程度の講習の後、5分程度でリサイクルの現状等を伝えた。朝から夕方まで5～6時間、参加者が10人以上集まるたびに、幾度でも開催した。
- B 京都府が実施している「宇治茶ムリエ講座」との協働開催。
予め募集した参加者に向けて実施。屋内の会場で1時間の淹れ方講習の後、程度でリサイクルの現状等を伝えた。

大学生に向けた働きかけ

おもに京都市内の数校にゲスト講師として招いてもらい、「1本のペットボトルから、世界と未来が見える」と題した講義を、各1時限担当させてもらった。そこでは、ペットボトル飲料の消費実態、廃ペットボトルの海外輸出の常態化、海洋ごみとの関係、代替手段などを伝え、2年通算で1,093人からアンケートの提出を受けた。

2018年度

実施日	大学	学部	講座名	担当教員	アンケート提出数
6月8日	京都光華女子大学	キャリア形成学部	現代環境論	高野拓樹准教	66枚
6月28日	同志社大学	政策学部	環境学a, 環境学	原田禎夫講師	204枚
7月11日	大阪商業大学	公共学部	地域政策	原田禎夫准教	18枚
7月12日	京都光華女子大学	キャリア形成学部	現代環境論	高野拓樹准教	41枚
10月5日	龍谷大学	政策学部	金紅実准教授ゼ	金紅美准教授	29枚
10月31日	京都外国語大学	外国語学部	現代環境論	畑田彩准教授	105枚
11月30日	京都府立大学	生命環境学部	マネジメント特	山川肇教授	23枚
12月18日	龍谷大学	政策学部	現代環境論	金紅美准教授	165枚
合計					651枚

2019年度前期

実施日	大学	学部	講義名	担当教員	アンケート提出数
5月9日	京都光華女子大学	キャリア形成学部	現代社会のリスクとまちづくり	高野拓樹教授	43枚
5月14日	同志社大学	政策学部	地域政策	原田禎夫講師	144枚
5月15日	立命館大学	産業社会学部	現代環境論	木原浩貴講師	168枚
5月15日	大阪商業大学	公共学部	環境保全論	原田禎夫准教	87枚
合計					442枚

講義の 主要内容

■プラスチックリサイクルをめぐる3つの大変

- ◇海ごみが大変
- ◇中国ショック
- ◇世界は脱プラへ

■3つの大変と、私たちの暮らしとのつながり

■3Rの優先順位を思い出そう

- ◇増えたことで生まれている問題

■京都市ごみ減が取り組む、**リーフ茶の普及で ペットボトルを減らそうキャンペーン**の紹介

1本のペットボトルから、
世界と未来を考える。

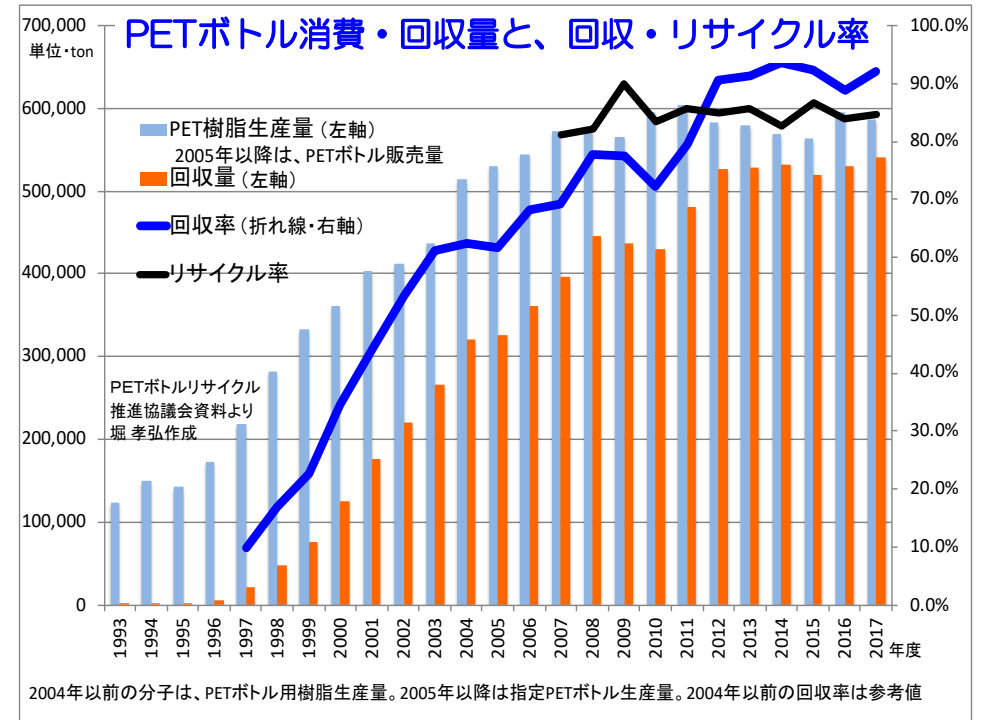


1本のペットボトルから何が見える

「分別」したその先に何がある？

ペットボトルが増えて、何が起きている？

京都市ごみ減量推進会議 職員 堀 孝弘



4. アンケートの内容とねらい

市民向けと大学生向けで、共通している質問

ペットボトル飲料の利用頻度（講習・講義前後の変化）の問いがある。

講習前 「ふだんの利用」

「よく利用する」、500mlボトル換算で1日1本以上の利用

「時々利用する」、数日で1本の利用

「ほとんど利用しない」、3つの選択肢から最も近いものを選んでもらった。

講習後 「今後の利用」

「（今後も）よく利用する」、

「少し減らす工夫をしてみようと思う」、

「ほとんど利用しない」のうちから選択してもらった。

* * * * *

大学生だけへの質問

小学校で、分別・リサイクルの大切さを学んだと思います。その後、中学校や高校で、分別のその先について、学んだり、調べたことはありますか。

「ない（覚えていないを含む）」

「学んだり、調べたが、小学校で得た情報等と同程度」

「学び、調べ、多くの発見があった」

5. アンケートの結果

一般市民向け「おいしいお茶の淹れ方講習」 「宇治茶ムリエ講座」と合わせた2R啓発事業

表1 「2R茶会」参加者アンケート結果(2018年度以降) ペットボトル飲料(緑茶に限らず)の利用について尋ねた。

対象：一般市民

講習前

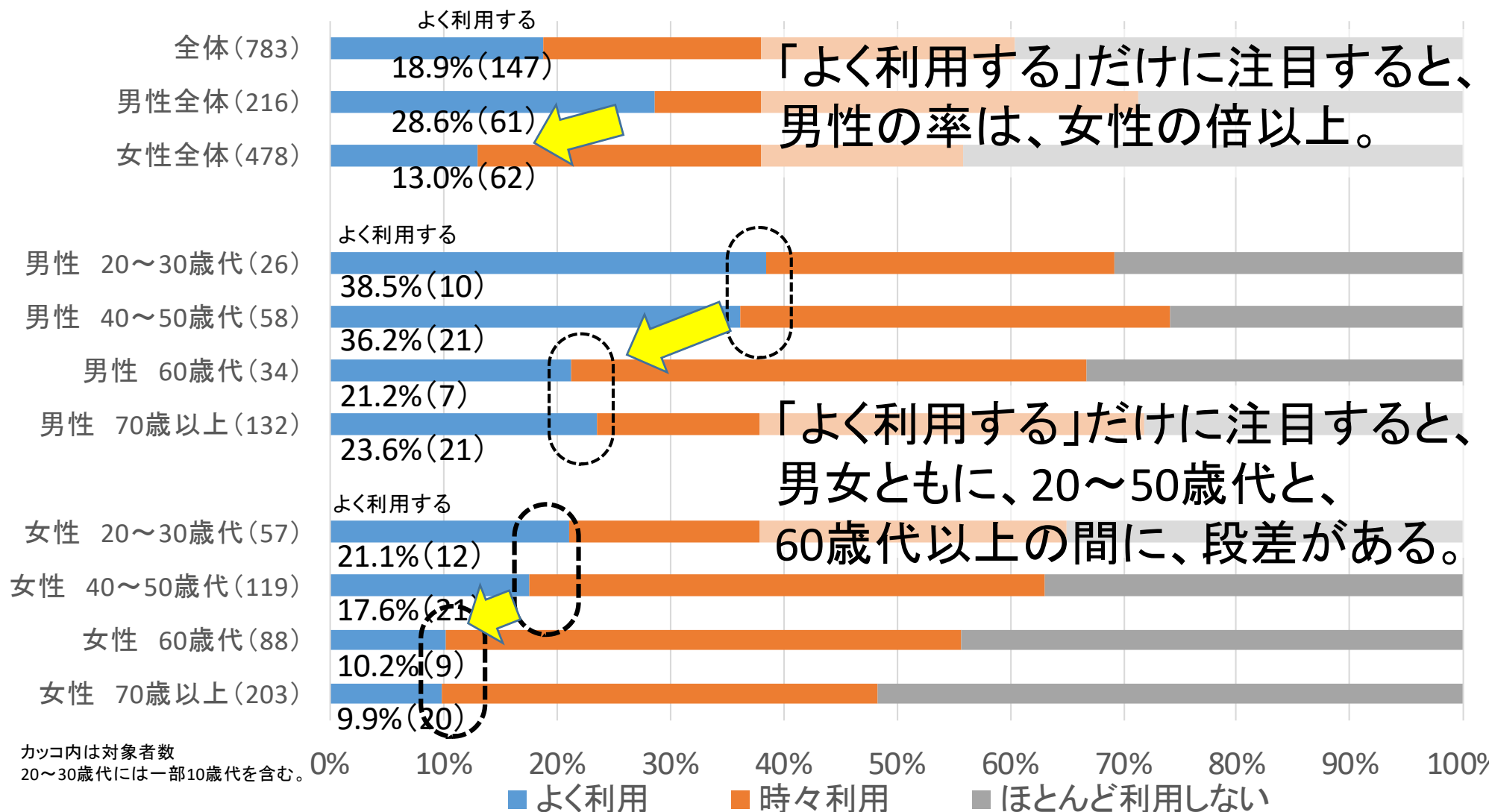
講習後

性別・年代等	質問等	参加者数 (人)	よく 利用する	時々利用 する	ほとんど利 用しない	不記 載	今後よく 利用する	少し減らす工夫 をしようと思う	ほとんど 利用しない	不記 載
全体		783	18.9%	41.6%	39.5%	4	7.9%	53.6%	38.5%	7
男性全体		216	28.6%	42.7%	28.6%	3	11.7%	59.3%	29.0%	2
女性全体		478	13.0%	42.9%	44.1%	0	6.5%	50.4%	43.0%	4
男性 20～30歳代		26	38.5%	30.8%	30.8%	0	15.4%	65.4%	19.2%	0
男性 40～50歳代		58	36.2%	37.9%	25.9%	0	17.2%	58.6%	24.1%	1
男性 60歳代		34	21.2%	45.5%	33.3%	1	2.9%	58.8%	35.3%	1
男性 70歳以上		132	23.6%	48.3%	28.1%	2	10.0%	57.8%	32.2%	0
女性 20～30歳代		57	21.1%	43.9%	35.1%	0	10.5%	57.9%	31.6%	0
女性 40～50歳代		119	17.6%	45.4%	37.0%	0	5.1%	62.7%	32.2%	1
女性 60歳代		88	10.2%	45.5%	44.3%	0	5.7%	47.7%	46.6%	0
女性 70歳以上		203	9.9%	38.4%	51.7%	0	7.0%	41.5%	51.5%	3

「全体」には性別不記載者89名を含む。500mlボトル換算で1日1本以上の利用を「よく利用する」、数日で1本を「時々利用する」として答えてもらった。
20歳代には一部10歳代を含む。期間は2018年4月から2019年5月まで。京都市ごみ減量推進会議事務局調べ

5. アンケートの結果 講習前（一般市民）

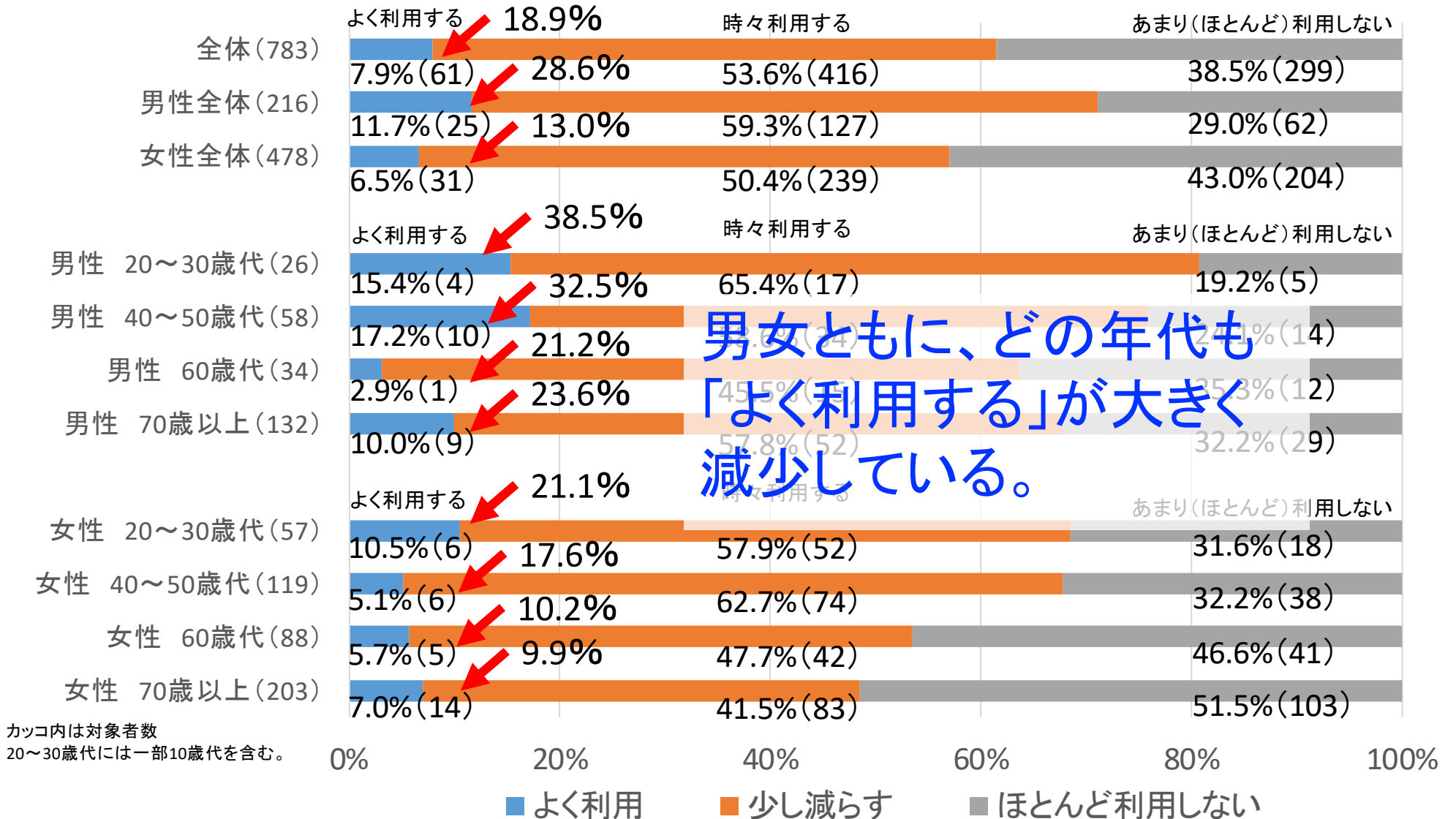
「2R茶会参加者」ふだんのペットボトル飲料の利用



500mlボトル換算で1日1本以上の利用を「よく利用する」、数日で1本を「時々利用する」として答えてもらった。
期間は2018年4月から2019年5月まで。京都市ごみ減量推進会議事務局調べ

5. アンケートの結果 講習後（一般市民）

「2R茶会参加者」講習後のペットボトル飲料の利用意志



男女ともに、どの年代も「よく利用する」が大きく減少している。

500mlボトル換算で1日1本以上の利用を「よく利用する」、「少し減らす工夫をしようと思う」の減量の程度は問うていない。
期間は2018年4月から2019年5月まで。京都市ごみ減量推進会議事務局調べ 783名からアンケート提出を受けた。

5. アンケートの結果 大学生

表2 「リーフ茶大学講義」受講者アンケート結果(2018年度以降) ペットボトル飲料の利用について尋ねた。

対象：おもに京都市内の大学生 講義前

講義後

質問等 性別・年代等	参加者数 (人)
全体	1093
男子学生のみ	477
女子学生のみ	616

よく 利用する	時々利用 する	ほとんど利 用しない	不記 載
41.8%	46.9%	11.3%	4
52.7%	40.5%	6.7%	1
33.3%	51.9%	14.8%	3

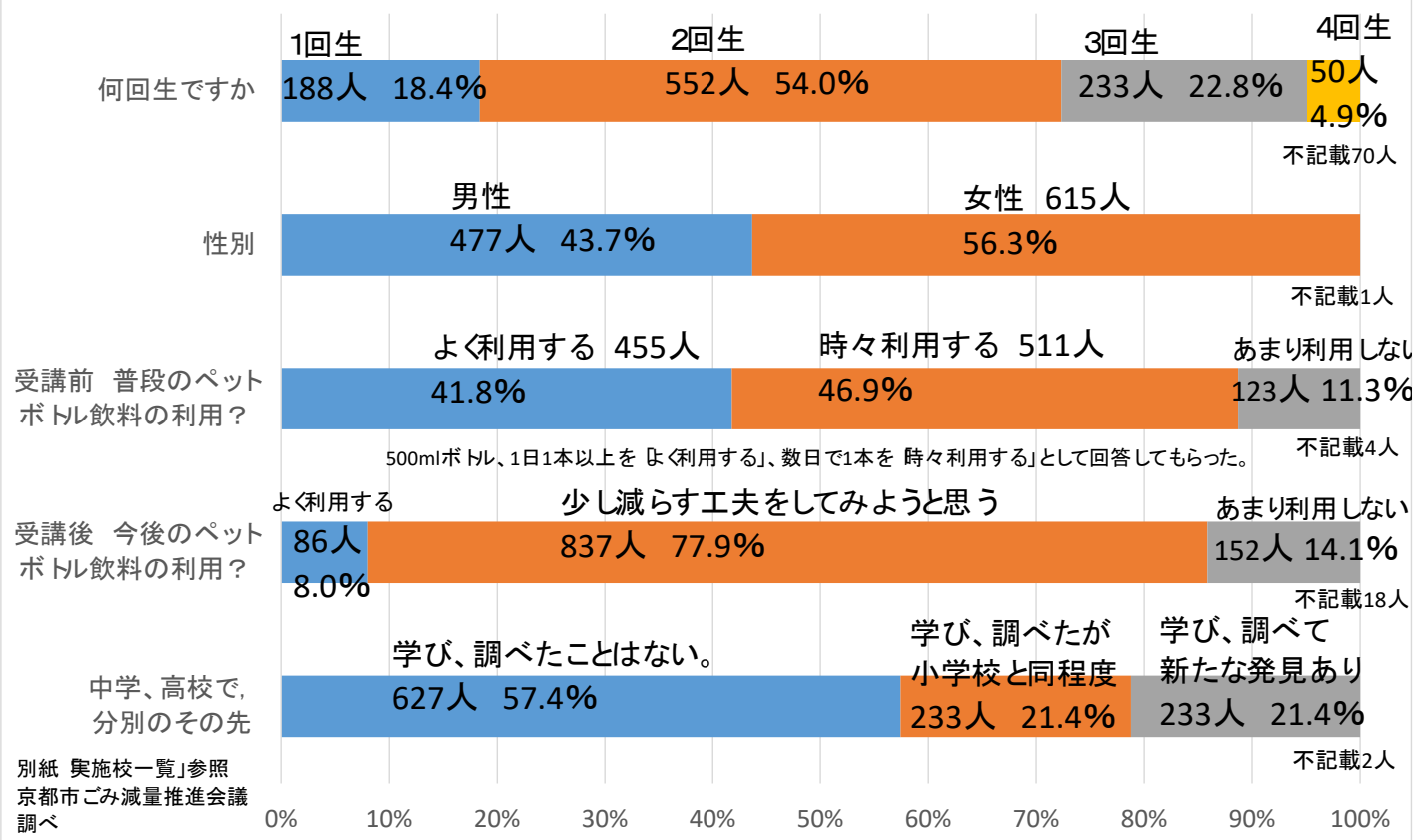
今後もよく 利用する	少し減らす工夫 をしようと思う	ほとんど 利用しない	不記 載
8.0%	77.9%	14.1%	18
13.1%	75.3%	11.6%	3
4.0%	79.9%	16.1%	15

500mlボトル換算で1日1本以上の利用を「よく利用する」、数日で1本を「時々利用する」として答えてもらった。

期間は2018年6月から2019年5月まで。京都市ごみ減量推進会議事務局調べ

2018年から2019年前期 リーフ茶大学講義学生アンケート結果

アンケート回収数
1,093枚



5. アンケートの結果 一般市民と大学生

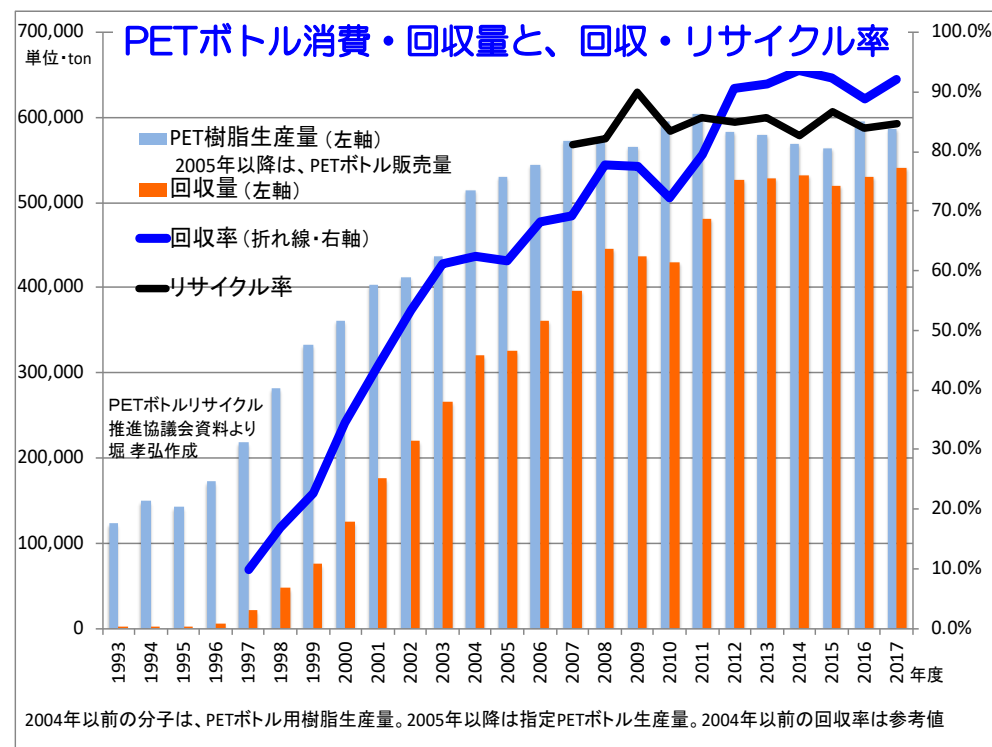
講習・講義前

概して若い年代の「よく利用する」率が高いが、年代が高くなるほど、ゆるやかに率が低くなるのではなく、男女とも60歳を境に段差が見られる。

ペットボトル飲料の消費が大きく伸びたのは1990年代半ば、缶飲料の消費は1980年代から伸長する。シングルユース容器が広まる以前の社会を知る世代と、経験していない世代とのギャップではないだろうか。

「分別・リサイクル」などの環境教育を受けた世代の方が「よく利用する」率が高い。

これまでの環境教育が、リサイクルの普及には効果があったが、リデュース意識を広めるものでなかったことを示している。



5. アンケートの結果 一般市民と大学生

講習・講義後

どの年代、性別も、講習(講義)後、「よく利用する」が大きく減っている。

市民向け(無関心層)には、おいしいお茶の淹れ方講習(体験)と合わせた**情報提供**

大学生には、90分の講義(実質75分程度)の中で、順を追った**情報提供**と、**代替策**を提示した。

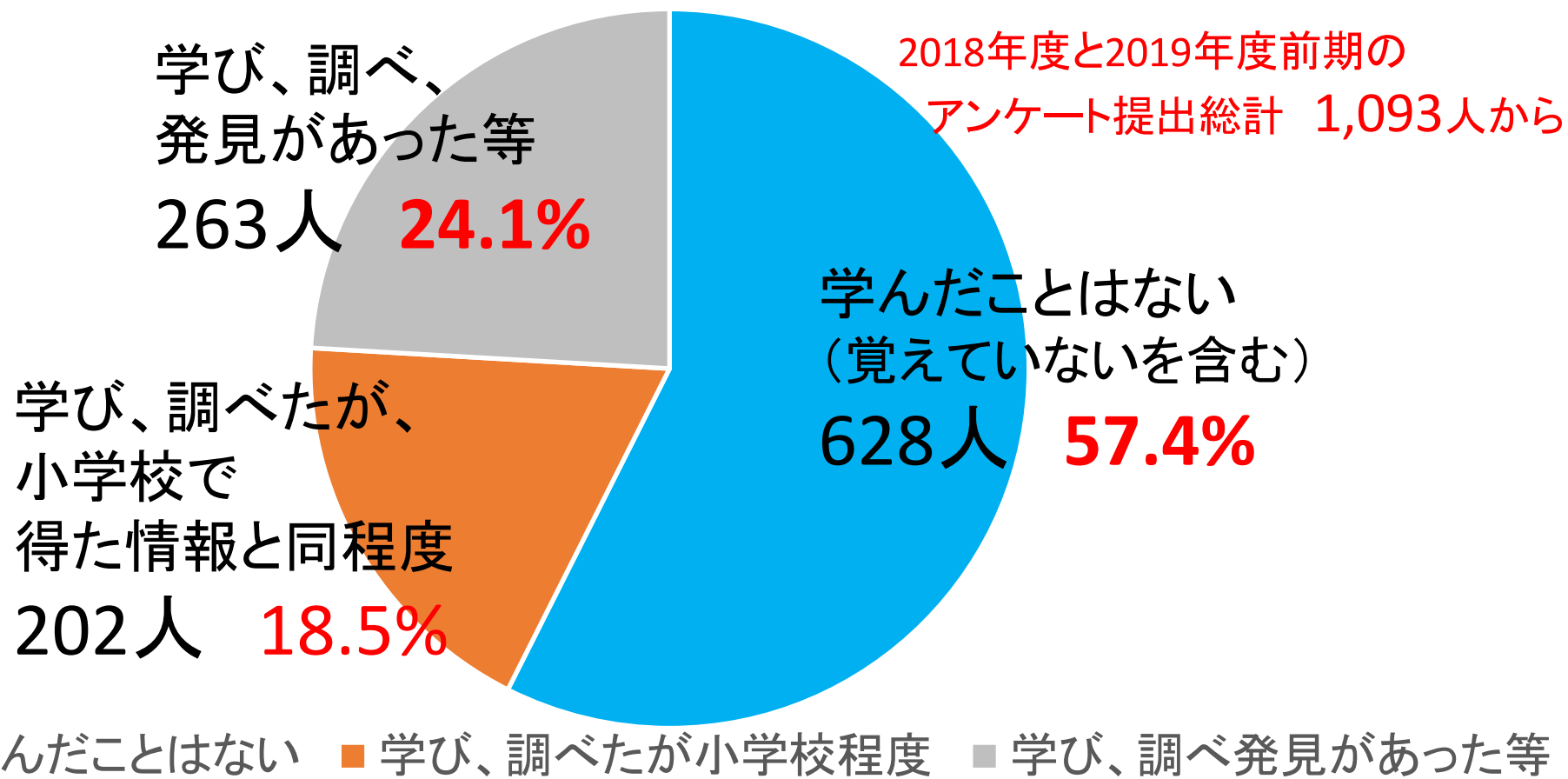
現状についての**情報提供**と
魅力的な**代替策**の提示

この2つの伝え方が、リデュース意識を高める重要なカギ



5. アンケートの結果 大学生

小学校で、分別リサイクルの大切さを学んだ後、
中学、高校で、分別・リサイクルの「その先」を学んだことはありますか



2018年度から2019年度にかけて、主に京都市内の6大学12クラスの1,093人からアンケート提出を受ける
京都市ごみ減量推進会議事務局調べ

6. 今後の課題

研究のための調査活動ではなく、あくまで社会活動
脱使い捨てプラ、減プラの機運を高めていく

地域浸透

小学区単位の地域ごみ減量推進会議での学習会
今年度12回実施予定

ウェブでの発信

「リーフ茶の普及で、ペットボトルを減らそうサイト」
のアクセス数が、前年比倍増

様々な伝え方

映画「プラスチック・チャイナ」の上映会＋学習会
「脱プラ、現プラステッカー」の作成と普及

行政への影響

行政の数歩前を行くことで、社会の反応が見える
より大きな影響力のある行政が動きやすいように。

伝える人の育成

2Rカレッジの検討・試行
2Rの考えの理解と伝えるスキルを持った人の育成

減らそう、
使い捨てプラスチック



URL: <https://kyoto-gomigen.jp/>
TEL. 075-647-3444 FAX. 075-641-2971
〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター活動支援室

今後の展開

後期もリーフ茶大学講義を4校程度で実施
ステッカープロジェクト
映画上映会＋ミニ学習会
地域ごみ減での学習会開催

今あらためて観る 見直すべきは私たちの国のプラスチック輸出！



プラスチック・チャイナ

上映会参加者募集

2019年 **9月14日** (土) 14時～16時

プラスチック輸出についてのミニ学習会も
あります。「中国の次はどこへ！」

会場：パタゴニア京都店3F
京都市下京区四条通富小路東入る

参加費：無料 定員：40名 どちらでもご参加
いただけます。

主催 京都市ごみ減量推進会議(ごみ減)
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

問合せ・申込先

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13 京エコロジーセンター活動支援室内
Tel 075-647-3444 Fax 075-641-2971 E-mail sanka@kyoto-gomigen.jp



ご清聴ありがとうございました。

担当 堀 孝弘

京都市ごみ減量推進会議 事務局

Tel 075-647-3444 Fax 075-641-2971

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内13 京エコロジーセンター活動支援室内

ごみ減ウェブサイト <http://kyoto-gomigen.jp/>

リーフ茶の普及で、ペットボトルを減らそうキャンペーンサイト

<http://kyoto-leaftea.net/>

連絡先 hori@kyoto-gomigen.jp

堀個人ブログ【環境活動・環境教育・役立情報】

～見落としがちな、あんなこと、こんなこと～

<http://horitakahiro.sakura.ne.jp/>

